

---

# 私が死ぬ時

香

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

私が死ぬ時

### 【Nコード】

N1589A

### 【作者名】

香

### 【あらすじ】

死ね。と言う言葉の重さ的なことをコツコツと書いています（汗）  
できる限り読みやすくなるようにがんばりますんで暇のある方は読んでやって下さい……

飯

ワタシガ

死ヌトキ

色トリドリノ

花タチニ

囲マレテ

ミンナ

笑顔デ

バカナヤツダツタ

ト

語り

イツカ

ワタシトイウ

存在モ

忘レテ

シマウ

ノダロウ

今

ワタシガ

生キテ

イル

意味ワ…

『死ネ』

この言葉、みんな使ったことありませんか？  
私はあります

1日に一回はかならず言います。  
つても冗談で言うただだよ？

だって本当に死ぬとは誰も思わないから…

夏の陽が眩しい早朝の出来事

『何なん！？』

『あんたが悪いんやろ！？』

『謝ったらどうなん！！』

『俺がなにしたんぞ！！』

「馬鹿じゃねーの」

『ムカつく！！』

『あんたなんか死ねばいいのに！！』

『つてかうちのために今ここで死んでください』『なんで俺が』

「お前の為に」

「死なな」

「いかんのぞ」

「バーカ」

『っ！！！！』

『ムカつく！！』 今日喧嘩してしまった…

同じバイト先の若店長。

永森 春日

こいつは…兎に角最悪なやつ。

今日の私のご飯は今こいつの腹の中に収まりくさってやがります。

定食屋

“ チャンピオン ”

ここでは飯時になると、老若男女関係なく人が押し詰める

安い。安い。旨い。

これがモットーなこのバイト先では、休憩時間が一時間二時間は当たり前のように遅れる。

今日も遅い昼飯を食べに事務所へとあがって行っただ。

バイトの私より早く休憩に入っていた春日は…あるうことか私の弁

当をつまみつつラーメンを食べていた。

思い余って自分のはいていたスリッパを掴み、投げたメジャーリーガーも真っ青のバイトで鍛えた強腕で。スリッパは勢いをつけ奴の背中にクリーンヒット。

同時に上がる

「痛っ！！」

と言う悲鳴。

達成感を噛み締めつつ奴に近づく。

『春日店長？』

『お昼ご飯ですか？』

『美味しそうですね』

「……後藤……」

「店長にスリッパ投げたバカたれがおるんやけど」

「誰かしらんか？」

『……さつき宇宙人が逃げて行きましたよ？』

「ほお……」

「俺もとうとう世界だけでなく宇宙にまで名が届くようになったか

……」

『早く宇宙のかなたからお迎えが来るといいですね？』

「ははははは」

「……………減給」

『黙れ』

『ハゲカス』

『飯代出せ』

「いくら？」

『二千元』

「はあ！？」

「こんなチンケな弁当に二千も払わす気が！！」

『黙れ』

『窃盗で訴えるぞ？』

「恐喝で捕まるぞお前」

『私のご飯』

『卵焼き』

『ハンバーグ』

『ウインナー』

『ブロッコリー』

『春巻き』

『鮭の…』

「わかった!!」

「わかったよっ!!」

「ほれっ!!」

『確かに』

『ではあと二十分休憩を伸ばしますので』

『その分沢山働いて下さいね?』

「こんなマズいものに二千かよ…」

『ああ?!』

『なんて!?!』

『もっかい言ってみいやボケナス!!』

こうやっていつも喧嘩しては…

最後は『死ぬ』と締めくくる。

いつの間にか私はそれが口癖になってしまっていた。

## 変態

バイトも終わり、さつさと家に帰ろうと早足で歩く。  
後ろではイヤミな車がクラクションを鳴らしている。

早足を止め、

私は猛ダッシュを繰り出した。

車は追いついて来て私の隣に並ぶ。

息を止めさらにスピードアップをもくろんでは見たものの、体がついて来ず減速するはめになった。「酷いなあ」

「そんな全力で逃げなくても、取って食べたりしないよ？」

「っ！っ！」

「あんたなら…やりか…ねないでしょ…」

「息切らしちゃって可愛らしいなあ」

「疲れてるなら早く乗りなよ！」

「結っ構ですっ！」「帰れ！消えろ！ハウス！！」

「僕は犬ですか」

「まあ…美咲ちゃんの犬ならなってもいいけどな…っ」

「っ！！！！！？」

「毎日添い寝してあげるよ？朝はのしかかって起こしてあげる…そして…」

「もういい…黙れ…そして…死んでこい…」

こいつの名前は

……永森 春希

…気づいたかな…

アレと兄弟なんです。

ホストなので夜にしか出て来ない。

お高いBMに乗り。スーツを着ると

どっから見ても立派なホスト

そしてその口から出る言葉は…理解不能。

はつきり言わなくても迷惑なのに本人は悪気なんてありませんと言  
う態度で近づいて来る。

逃げてても逃げてても憑いてくる…いや…ついて来る。

今日も命からがら振り切って。

家に着いた。

家には誰にも知られたくない秘密がある。

私は旦那様がいるのだ。しかも新婚はやほやつ！

高校から付き合いはじめ、卒業と同時に入籍、大好きな大好きな旦那様です！

『ただいまっ』

『…と』

『今日は遅いつて言つてたっけ…』

『しょうがない…』

『寝よ…』

その日は…おかしい夢を見た気がした…



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1589a/>

---

私が死ぬ時

2010年10月9日21時07分発行